

令和元年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、令和元年は6月19日、7月22日、8月6日、9月5日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-257尾/1,000m²の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は6月19日に水深5mで50-59mm、7月22日に水深5mで40-59、10mで30-49mm、8月6日に水深5m及び10mで40-69mm、9月5日に水深5mで60-79mm、10mで70-89mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、令和元年は184で、昭和55年以降の平均値148を上回る水準でした（図3）。

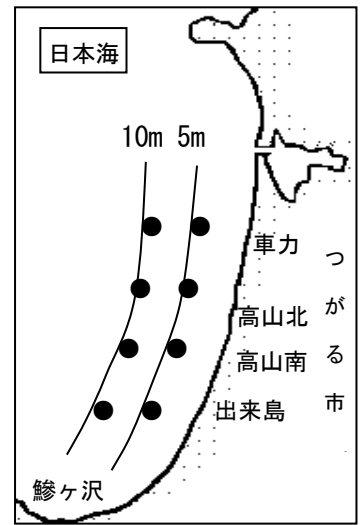


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深				5m				10m				(個体/1,000m ²)		
	調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m 平均	10m 平均
2019.6.19		9	3	21	0	0	0	0	3	0	0	0	3	6	1
2019.7.22		257	201	116	135	11	67	49	32	11	67	49	32	184	41
2019.8.6		204	195	81	62	65	21	39	9	65	21	39	9	144	33
2019.9.5		50	41	24	3	3	6	0	0	3	6	0	0	29	2

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

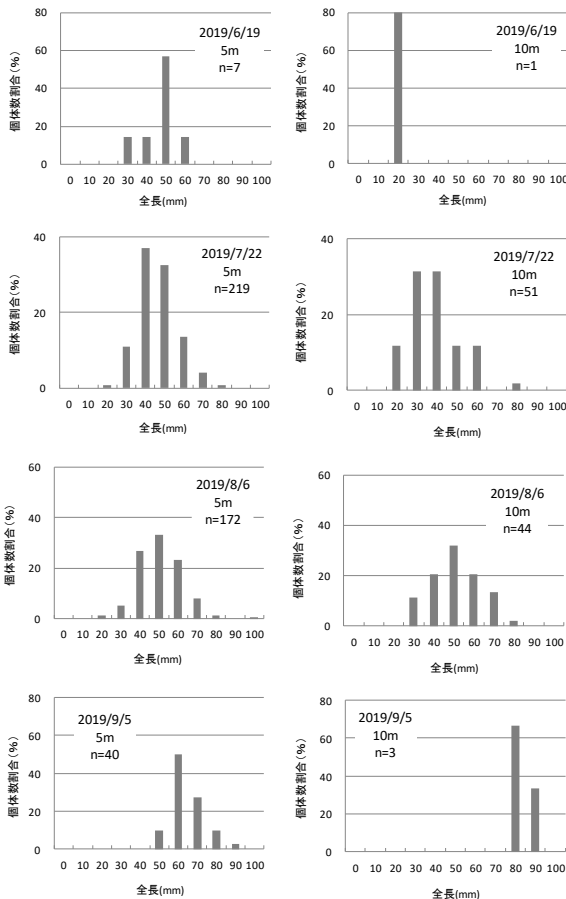


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

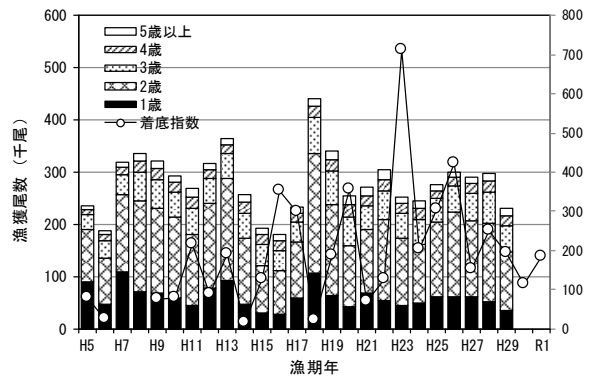


図3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移